

16号

北海道がんセンターたより

平成17年7月発行

独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター
〒003-0804 札幌市白石区菊水4条2丁目3-54 TEL 011-811-9111
□ホームページ <http://www.sap-cc.org>



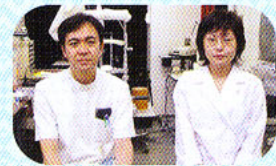
編集発行人:山下 幸紀

北海道がんセンターの理念

私たちは、国民の健康で幸福な生活のため、最新の知識と医療技術をもとに、良質で信頼ある医療の提供に努め、特に「がん克服」に寄与することを目指します。このため、

- 常に、医療の質と技術の向上を目指します。
- 研究、教育研修を推進し、医療・医学の発展に寄与します。
- 患者さんの権利を尊重し、誠実な医療を実践します。
- 自主自律、創意工夫の精神で病院運営に当たります。

眼科紹介



眼科医師 網野 泰文

人間は外界の情報の約80%を眼を通して得ていると言われていいます。眼科は、その大切な視覚を司る眼球とその付属器の病気を扱う科です。視覚と一言で表現しても、その内容はどれだけ細かいもの、遠くのものが見えるかを表す『視力』や、どれだけ目の範囲がみえるかを表す『視野』など様々な要素があります。

視力や視野は様々な病気で損なわれることもありますが、急に悪くなる病気は少ないために不幸にして病気の発見が遅れると、治療に長い時間を要したり最終的に視覚に障害が残る事もあります。

代表的なものとしては、最近テレビや新聞で取り上げられる機会の多い『緑内障』という病気があります。

緑内障は眼圧という眼の中の圧力によって、眼球から脳に視覚情報を伝える視神経が損なわれて視野が狭くなったり視力が下がっていく病気です。初期のうちには全く自覚症状がないために、早期発見には視力、眼圧、眼底、視野等の検査が必須になります。幸いにして近年の薬や手術法の進歩によって、早期に発見出来た緑内障は、視機能に影響を及ぼさずにコントロールが可能な例が増えてきています。病気の原因がはっきりしていないものの、日本では40歳以上の約30人に1人が緑内障にかかっていると言われていいます。目には自信のある方でも40歳を過

ぎたら年一回は眼科受診をお勧め致します。

また、良く似た病名に『白内障』というものがあります。こちらは主に年齢が原因と言われており、眼の中の水晶体というレンズのような部分が濁ってしまい、そのために霞んで見えるようになったり視力が下がったりする病気です。

白内障も進行の速度は遅いものの発見の時期に関わらず、一部の例外を除き手術による治療が可能です。手術では特殊な器具を用いて濁った水晶体を取り除き、代わりに眼内レンズという直径6mm程のレンズを眼の中に入れるというものです。局部麻酔で行ないますので体力にあまり自信がなかったり、全身的な持病のある方でも他科の主治医の先生と相談の上で、できるだけ安全に手術を行えるように心掛けておりますので、御相談頂ければ幸いです。

また、見え方には問題が無くても『ゴロゴロして目が開けられない』とか『メヤニが多い』といった目に関するトラブルや高血圧、糖尿病などの全身病の眼合併症のチェックにも対応しておりますので受診の際に御相談下さい。

眼科は2名の医師で診療を担当しております。今年4月にがんセンターに着任した網野泰文と唐尚子医師です。十分な説明と、納得して頂いた上での治療を心掛けて診療を行っておりますので、ちょっとした症状でも遠慮なく受診して下さい。

Contents もくじ

眼科紹介	眼科医師 網野 泰文	1
尿の色について	臨床検査科 医化学主任 星 直樹	2
「ふれあい看護体験フェスタ2005」を終えて	副看護部長 池田 美智	3
『私達、がんばってます！～新人奮闘記～』	臨床検査技師 浅沼 香織 / 診療放射線技師 泉谷 浩二	4

尿の色について

臨床検査科 医化学主任 星 直樹

「運動した後、尿の色が濃いなあ。」「おしっこの色が黄色だ。栄養ドリンクを飲んだからかな？」みなさんが、何気なく自分の尿を見て感じていることは、私たちが検査をする上でも重要なことのひとつです。

尿の検査において、まず外観を観察する。これが基本となります。この外観とは、尿の色調、濁度が主なのですが、ほかに泡立ち、光沢、粘度、浮遊物、匂いそして放置による変化など多岐にわたります。

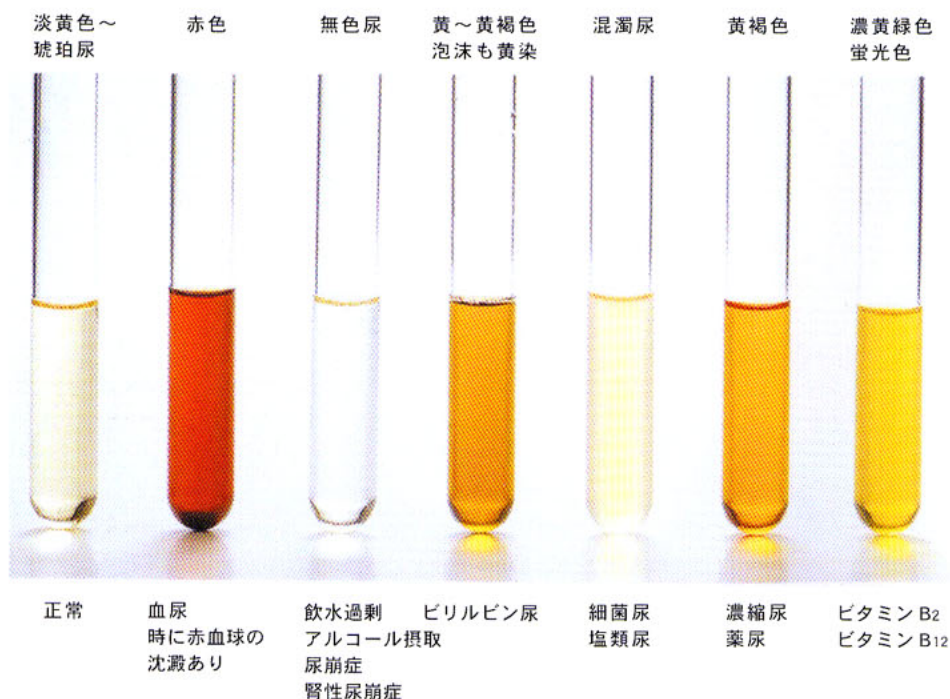
尿の色調について少し説明します。健常人の尿の色は、食物、運動、発汗などの影響を受け、水様透明に近い淡黄色から濃黄茶色（わら黄色、コハク色）まで、さまざまな程度の黄色をしています。尿の黄色調は、ウロクロムA、ウロクロムB、ウロビリリン、ウロエリスリンによります。ウロクロムAは、体内組織蛋白質の崩壊産物、ウロクロムBはヘモグロビンやミオグロビンの分解産物です。健常人の場合にはこれらの産生量がほぼ一定しているために、一般的には尿の色は、尿比重と平行し、尿の量に反比例し

ています（色が濃いとき量は少ない、色が薄いとき量は多い）。しかし、ウロクロムは、発熱、甲状腺機能亢進症では排泄が増加するため、尿の色は濃くなります。

健常人尿は採尿してすぐには透明清澄ですが、時間とともにやや不透明になり、雲えい（もやもやとしたもの）を生じてきます。これは尿路、性器から正常に分泌される粘液成分が沈殿したものです。採尿した直後でも、アルカリ性尿でリン酸塩、炭酸塩による混濁を認めることもあります。また、冷却や長時間放置した尿では、尿酸塩や細菌による混濁も生じます。

図1に、尿の色調を示しました。最近の世の中には、薬、サプリメント、漢方、食物により尿の色調も多彩になってきています。「赤色は血尿です」とはなりません。少しおかしい色と自分で感じていても決して異常とは限りませんが、尿の色はあなたの体の変化を映し出す鏡でもあるのです。

図1 尿の色調、混濁度



「ふれあい看護体験フェスタ2005」 を終えて

副看護師長 池田 美智

ふれあい看護体験の外来フェスタでは、昨年同様、骨密度・血圧・体脂肪測定や栄養相談、お薬の相談をさせていただきました。たくさん（約100人）の方々に参加していただき、大変嬉しく思っております。今年も、骨密度測定、血圧・体脂肪測定に大変人気が集まり、関心の高さを改めて感じました。栄養相談では、貧血に良い食事やカルシウムの摂り方、コレステロールについての相談が多く、健康を意識した食生活を心がけようと感じました。お薬についての相談は、どんな相談をして良いかわかりにくいところもあったと思いますが、お気軽に声をかけていただければと思います。皆様のご協力により大きな混乱もなく無事にフェスタを終了することができました。本当にありがとうございました。ただ、開催時間に限りがあるため、残念ながら測定が出来なかった方もおり、次の機会のご参加を是非お待ちしております。

看護体験では、札幌市内から13名の高校生が白衣を着て病棟に入り、看護師とともに患者さまの清拭や車椅子の散歩などを行いました。初めて患者さまのそばに行き、何をして良いかわからず、カチコチ

になっていました。しかし、患者さまの暖かな配慮のもと少しずつ緊張もほぐれ、一緒に撮らせていただいた写真では、皆笑顔が素敵に写っていました。患者さまには、私達も感謝の気持ちでいっぱいです。

午後からの看護技術の演習では、緊張もほぐれて、元気いっぱい車椅子で走り回っていました。さすがに高校生は若い・・・と感じましたが、今日の体験を通して、相手に対する思いやりの大切さを感じてくれました。その事を、今後に生かしてくれるよう、期待しています。



『私達、がんばってます! ~新人奮闘記~』



臨床検査技師 浅沼 香織

はじめまして。この春から北海道がんセンターの臨床検査科で臨床検査技師として働いている、浅沼香織と申します。臨床検査科では、患者さまから採取された血液や尿などを用いて様々な検査を行ったり、心電図検査など実際に患者様に接しながら検査を行ったりしているところです。また、外来患者さまの採血の手伝いもしています。

4月から働き始めて早2ヶ月が過ぎ、見るもの触るもの全てが初めてで日々戸惑いながらも、ようやく毎日の仕事の流れが見えてきたかなと思い始めたところです。

しかし未だに毎日失敗の連続で、たとえばこれは検査技師として以前の問題なのですが、私はいまだに病院のつくりが覚えられていません。先日も患者さまに道を聞かれたのですが全くわからず、さらに看護師さんに聞くという二度手間をかけてしまいました。

このように毎日何度も"すみません"を連発するような私ですが、周りのやさしい先輩方に助けをもらいながら、1日1日を精一杯、全力を尽くしてがんばっています。直接患者さまと接する機会の少ない仕事ですが、正確で迅速な検査を行うことで、患者さまにとって安全かつ最良な医療を提供することに貢献していきたいと思っています。もし採血などの機会に私をみかけるようなことがあったら、気軽に声をかけていただけるととてもうれしいです。



診療放射線技師 泉谷 浩二

はじめまして。私は、新人の診療放射線技師、泉谷浩二と申します。現在は胸部撮影室や外科撮影室で、胸部・腹部・骨を撮影する修業をしています。勤めはじめて、『あっ!』という間に2ヶ月が過ぎてしまいました。放射線科の先輩方にあたたかく見守られて、やっと仕事にも慣れてきました。まだまだ勉強が足りず、撮影するまでに時間がかかってしまいます。患者さまをお待たせしてしまうことが多々あり、大変ご迷惑をおかけしております。また、自分ではポジショニングがうまくいったと思っても、実際はなかなか良い写真が撮れず、悔しい思いをしています。これからCT・MRI・エックス線TVなど覚えなければならないことがたくさんあるので、小さなことからコツコツと基礎をしっかりと勉強していきたいと思っています。そして、患者さまをお待たせすることがなく、最良の画像情報を提供できる診療放射線技師になれるように頑張ります。

